

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

先生の説明を聞いて「分かった」と思ったのに、いざ問題を解こうとすると、手が止まってしま
う。そんな経験はないでしょうか。「分かる」と「できる」の間には、思っているよりも
大きなへだたりがあります。

けん玉のわざを例に考えてみましょう。上手な人がやるのを見て、「ひざを使って、玉をまっす
ぐ上げればいい」とこつを聞けば、頭では分かった気になります。けれども、実際にやってみると、
玉は思った方向に上がらず、なかなか皿にのりません。こつを知っていることと、体がそのとお
りに動くことは、別のことなのです。

では、「分かった」を「できる」に変えるには、どうすればよいのでしょうか。大切なのは、自
分でやってみて、うまくいかなかったところをたしかめることです。どこでつまづいたのが分か
ると、次にどこを直せばよいかが見えてきます。これをくり返すうちに、少しずつできるようになっ
ていくのです。

勉強も同じです。説明を聞いて分かったと思ったら、何も見ずに、自分で問題を解いてみましょ
う。解けなかったところこそ、まだ本当には分かっているところではないです。

「分かった」は、ゴールではなく、スタートです。自分の手や体を使ってためしてみることで、
はじめて、知っていることが自分の力になるのです。

(この問題のための書き下ろし)

問一 けん玉の例で、筆者は「こつを知っていること」と何が別のことだと言っていますか。本文から十五
字までで書きぬきましょう。

問二 筆者は、「分かった」を「できる」に変えるために、何が大切だと言っていますか。いちばんあうも
のを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア 自分でやってみて、うまくいかなかったところをたしかめること。

イ 上手な人のやり方を、何回も見ること。

ウ こつを書いた本を、たくさん読むこと。

--

問三 「『分かった』は、ゴールではなく、スタートです」とありますが、これはどういうことですか。四
十五字までで書きましょう。

問四 「勉強も同じです」とありますが、何が同じなのですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえら
びましょう。

ア けん玉と同じように、勉強も体を動かしてするものだということ。

イ 分かった気になっても、自分でやってみないと、できるかどうか分からないということ。

ウ 勉強も、上手な人のやり方を見るのがいちばんだということ。

--